<table>
<tr><td rowspan="2">科目区分</td><td rowspan="2">専門分野</td><td>科目名</td><td>診療補助技術Ⅱ（与薬）</td><td>対象学生</td><td>第１学年</td></tr>
<tr><td>単位数(時間数)</td><td>１単位（30 時間）</td><td>学　　期</td><td>第２学期</td></tr>
<tr><td>担当講師</td><td colspan="3">飛田　佐知</td><td>実務経験</td><td>有</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="5">１．診療の補助における看護の役割を理解する。
２．与薬を受ける患者の看護を理解する。
３．診療補助技術を習得する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="5">第１回　薬物療法を受ける患者の看護　　（講義）
１．与薬の基礎知識　　２．薬物動態、注射指示の流れ　　3. ６Ｒの確認
第２回　薬物療法を受ける患者の看護　　（講義）
１．与薬における看護師の役割
２．薬の管理（毒薬、劇薬、麻薬、抗がん剤)、麻薬取り扱い時の注意、抗がん剤曝露の経路と急性中毒の症状、抗がん剤曝露防止の方法
第３回　薬物療法を受ける患者の看護　　（講義）
１．経口与薬、口腔内与薬の援助方法の基礎知識　　２．経口与薬、口腔内与薬の援助の実際
第４回　薬物療法を受ける患者の看護　　（講義・演習）
1. 吸入、点眼、点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬の援助の基礎知識と実際
第５回　薬物療法を受ける患者の看護　　（講義）
１．注射の基礎知識（技術の概要、注射法の長所と短所、注射法の種類、注射筒と注射針
２．アンプル、バイアルからの薬液の吸い上げの方法
３．皮下・皮内・筋肉内注射の実施法（目的・適応、注射選択部位）
第６回　注射器の準備・アンプルからの薬液の吸い上げ　（演習）
１．注射筒と注射針の接続　　２．アンプルからの薬液の吸い上げ
第７・８回 注射器の準備・アンプルからの薬液の吸い上げ、筋肉内注射の実際　（演習）
第９回　薬物療法を受ける患者の看護　　（講義）
１．静脈内注射（ワンショット・点滴静脈内注射の概要、目的、注意点、注射部位の選択）
２．輸液速度の調整（自然滴下）
第 10 回　薬物療法を受ける患者の看護　（講義）
１．輸液療法を受ける患者の看護　２．点滴静脈内注射（翼状針による点滴静脈内注射の実施方法）
第 11 回　薬物療法を受ける患者の看護　（講義）
１．輸液ポンプの実施方法　　２．点滴静脈内注射による混注
第 12・13 回　点滴静脈内注射の準備、実際　（演習）
第 14 回　輸血を受ける患者の看護　　（講義）
第 15 回　まとめ、終了試験</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="5">筆記試験（80%)、演習への参加状況（20%）で総合的に評価</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="5">系統看護学講座　基礎看護学［3］　基礎看護技術Ⅱ　　医学書院
系統看護学講座　基礎看護学　臨床看護総論　　医学書院
看護技術プラクティス第４版　学研</td></tr>
<tr><td>講師からのメッセージ</td><td colspan="5">形態と機能、疾病・治療論、病態治療学、栄養学、薬理学の学習内容を復習し、授業に臨む。
講義・演習において注射針の取り扱いは教員が必ず立会い、学生同士の注射針の直接刺入は禁止する。
注射法の技術は、模型や注射シミュレーターを使用して安全で正確な技術を習得する。
国家試験出題基準を確認し学習すること。</td></tr>
</table>